



彼女は未だ、殻の中にゐる。

或る人物の手記より抜粋

COCOA HOLIC Presents,
"G.E.D" Episode-1
Pt.1 "Onnanoko no Mayu"
in April, 1935



昭和十年 四月——

両親の不幸により
横須賀の実家に
呼び戻された

厭世家を自称する
ぼくにとって英国の
陰鬱な気候は実
性に合っていたのだが

散々に放蕩を重ねた
一人息子にとっては

大人しく帰国に
応じるのがせめて
もの孝行だった

これより
耀一郎さまの身の
まわりの世話話を
仰せつかるつ

お荷物を

ああ すまない…

?

ああ…

お前は?

『繭』と申しますっ

金髪——
異人の子か?



*As for other words, the probability of
as best, in the case, since the person
is the owner for... (5.12)*

$\psi(x) = A e^{i p x / \hbar}$
now the boundary...
all

他の方は無事
他家に
ご出仕され
たと聞いて
おります
ただ...

屋敷の者には
倫敦に
居る間に
暇を出した
つもりだったが...

小田沼?
...ああ
使用人頭の



繭だけは
大胆な様に
召し抱え
られたばかり
で行き場が
なく...
小田沼様
が残りな
さいと

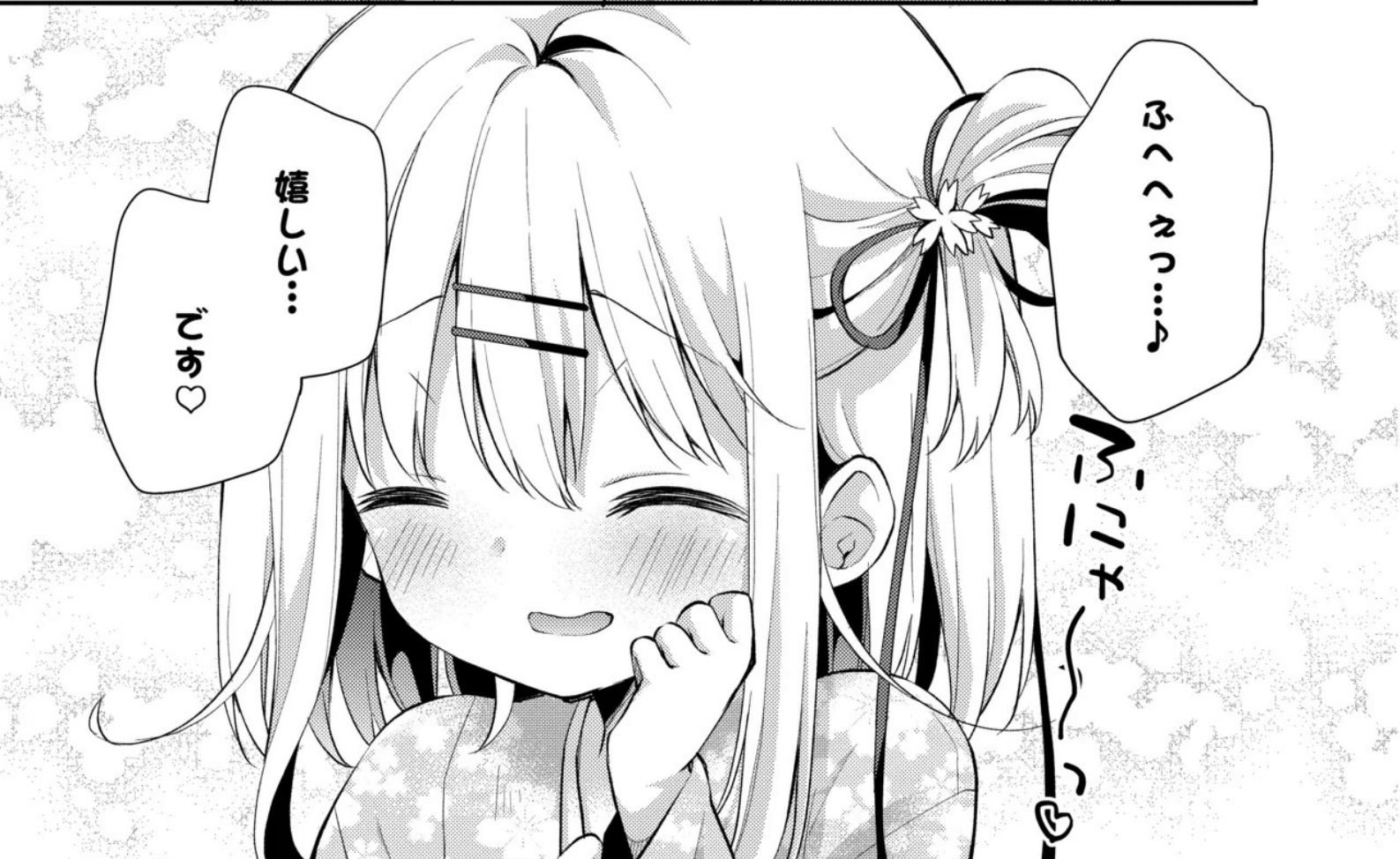


気になる
改めて
お前の身
請け先を
探す
手間が
増えた
だけだ

ご迷惑...
でした
でしょうか?
ごめんなさい



全く小田沼も
何を
考えて
こんな...





…以前は吉原にて
禿として使われて
いたそうですな



ならこの家に
飼われた方がまだ
幸せだろうな



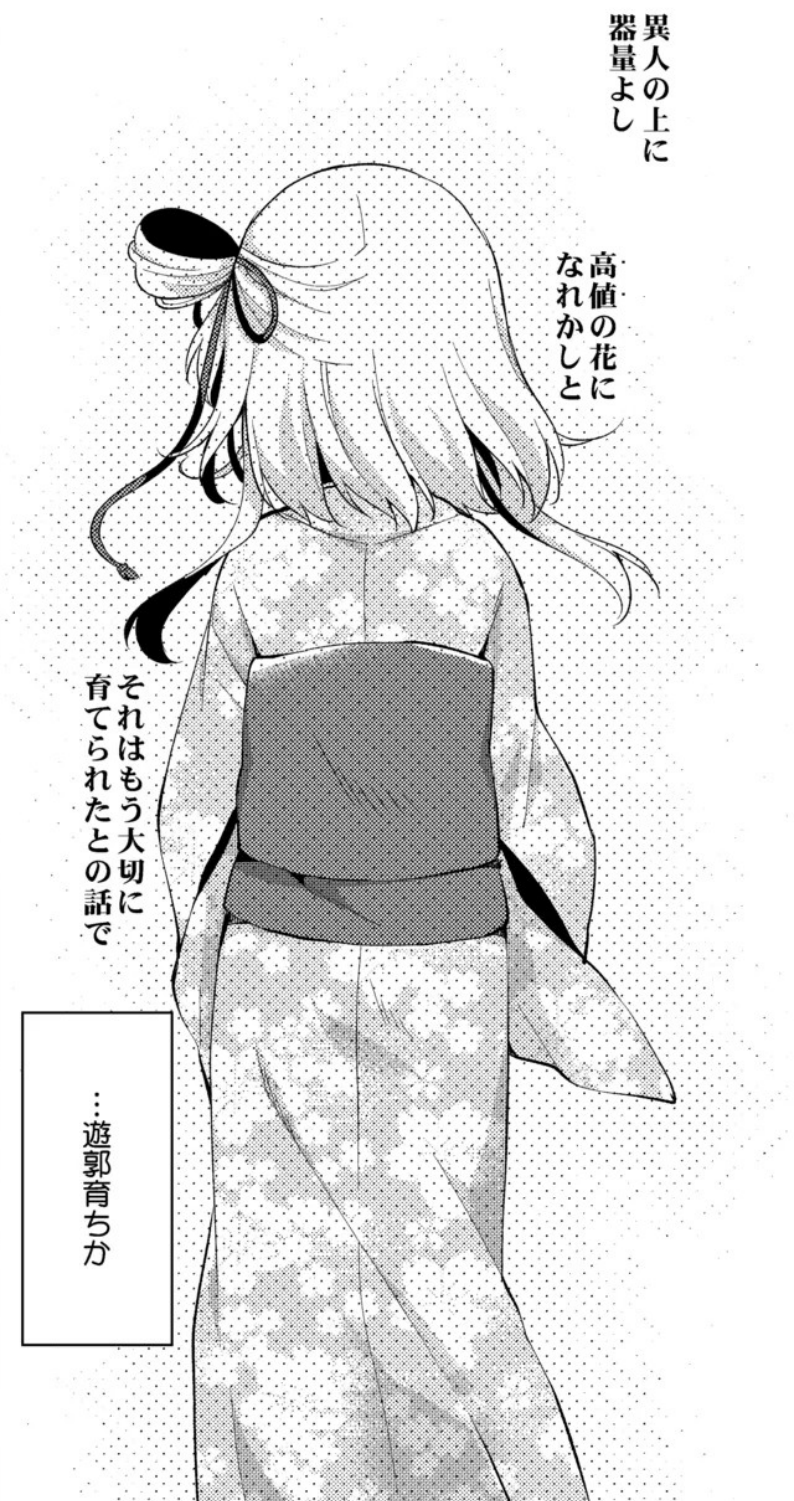
子供じゃあるまいし
それくらい一人で
やれるつてのに…

そんなわけには
参りませんっ



…しかし
綺麗な髪だ

確かに廓に
囲つておくには
しのびないな



異人の上に
器量よし

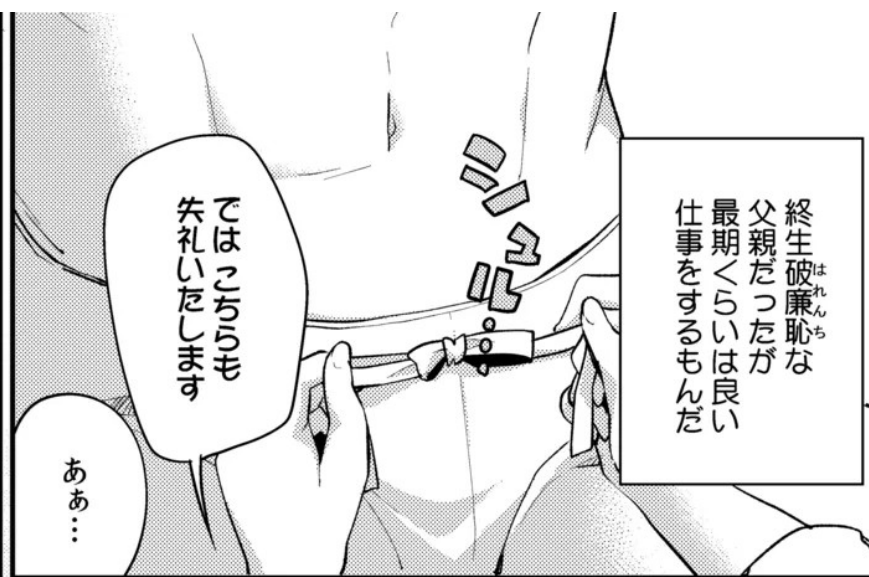
高値の花に
なれかしと

それはもう大切に
育てられたとの話で

…遊郭育ちか



…ん？



ではこちらも
失礼いたします

ああ…

終生破廉恥な
父親だったか
最期くらいは良い
仕事をするもんだ



はえっ!?

うんちよつと
待つて

それは流石に
おかしいと思う



…なら
仕方ないか

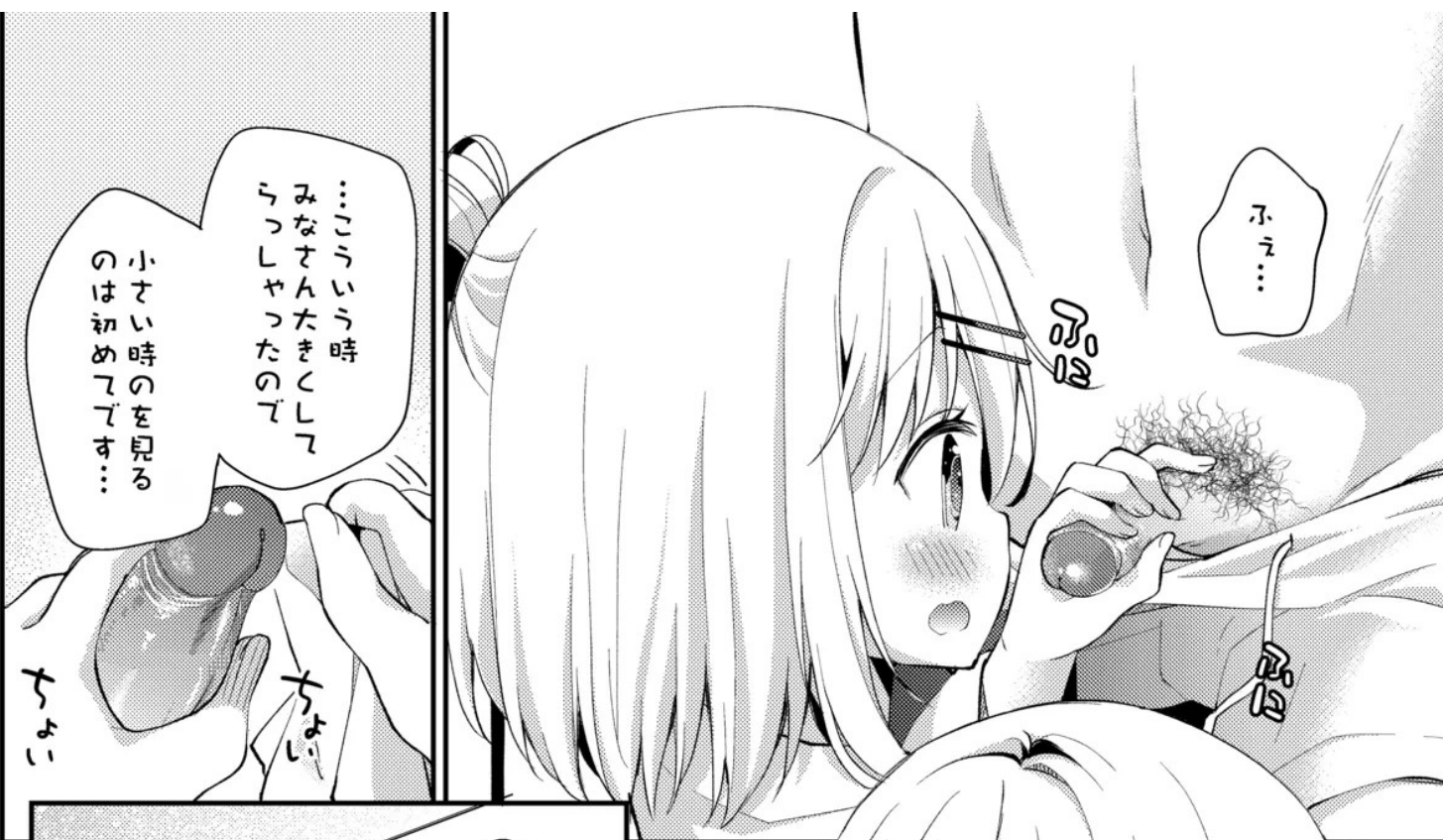
ふしだらな
アレじゃない？
…本当に？



こちらもちやんと
拭かないとって
姐さんがたがっ

そのつご病気をしては
いけませんのでっ！

あせ
あせ





逐一実況しないで
くれませんか

ふえっ!? また
おっきくなっつて...



...なめます?

なな...

...おし認めよう

どうやらぼくは
十やそこらの少女に
性的な反応を
示す男らしい



そそっ!
そう...ですね...



ふいっやん



それより
そういう気なら
お前も脱げよ

なんかその...
平等じゃないだろ?

えと…

未熟な持ち物で
耀一様さまの
お役に立てるか
わかりませんが

きつと中は
ぬるつとして
あつたかいと
思うので…

あつ

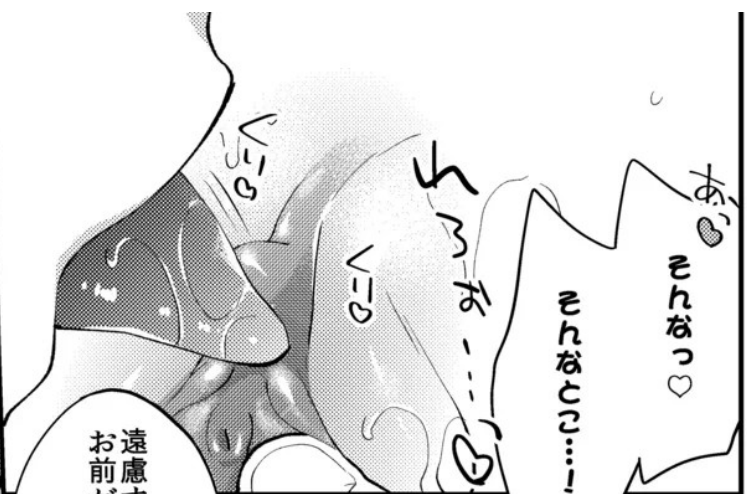
ここれが
女の子の—
!

キム
キム…

どっ どうぞ…?

ぽん

キム





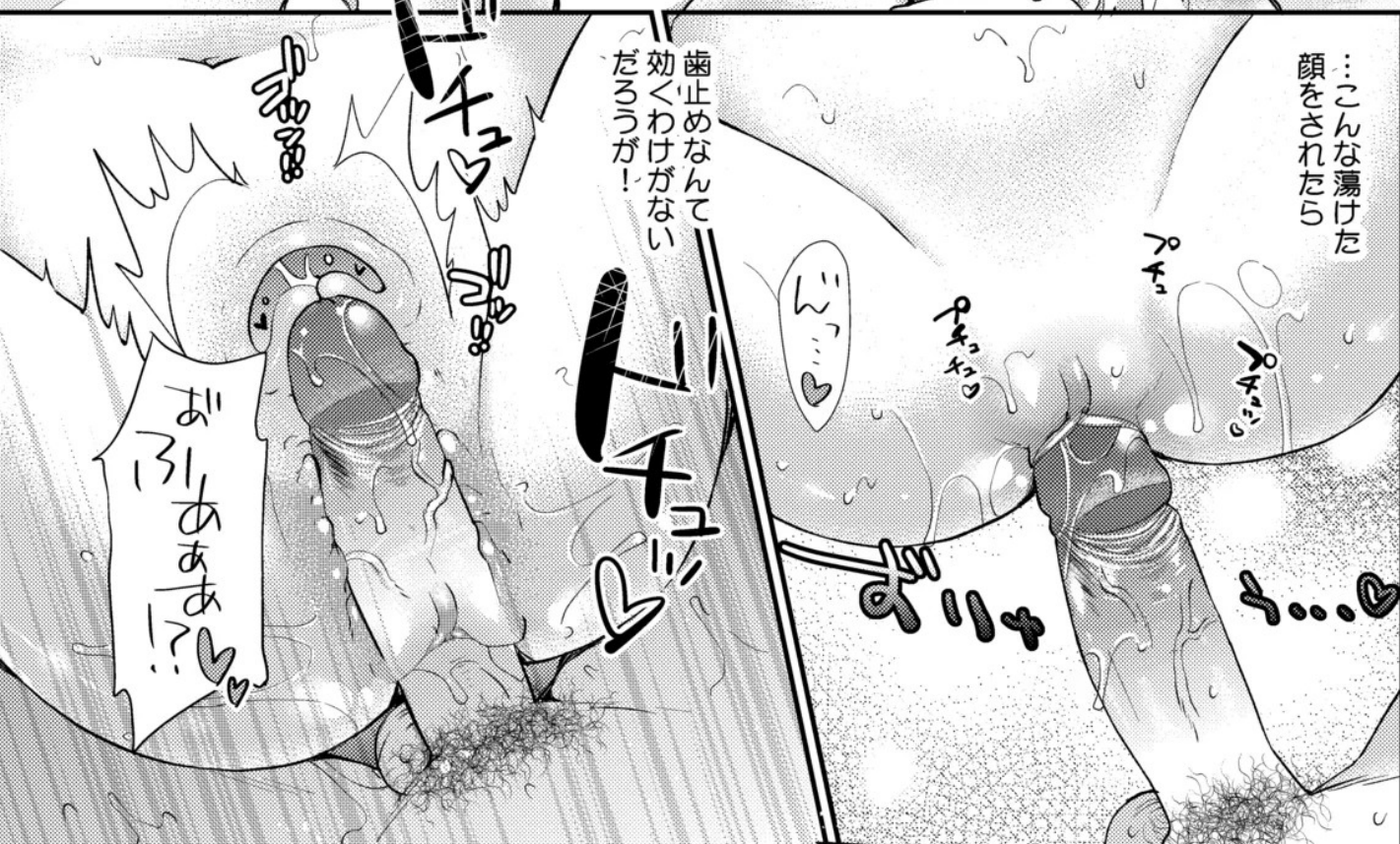




歩んだ道のせいかな
生まれ持った
ものなのか

ま...♡
...きもち...い...♡♡

...どうやら繭には
ある種の『素地』が
備わってるようだった



...こんな濡けた
顔をされたら

歯止めなんて
効くわけがない
だろうが！

お...あ...あ...♡♡



お役に立ち
たかった...のっ

蘇だけよく
なってしまうのっ♡

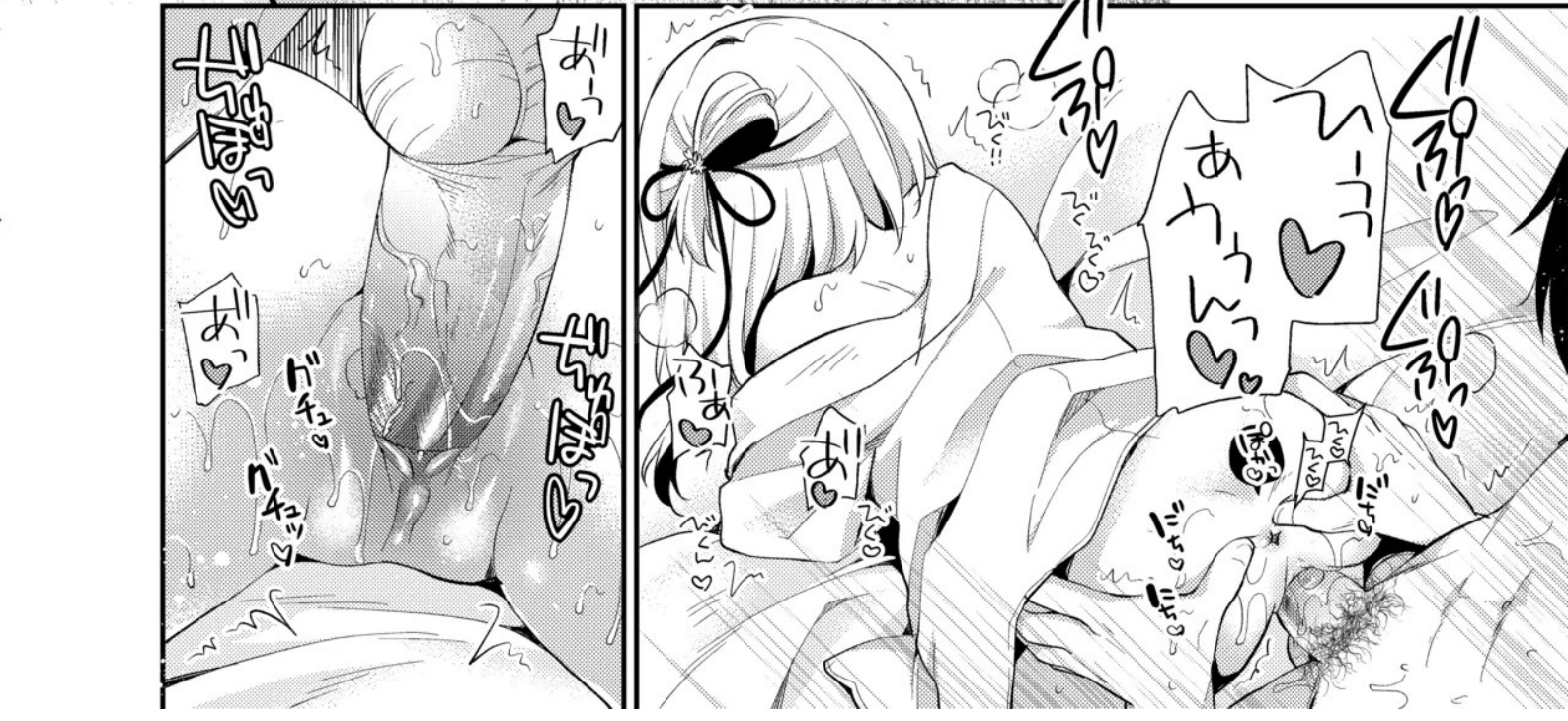
何も考えられ...
なく...てっ♡

ふあふあ♡
ズンズン♡
ズン♡

いっしょに
するのっ♡
だめ...ですっ♡

もっと...
きちゃっ...!!

きゅん♡







射精すぞっ

このまま
射精すぞっ……

ふにゃっ♡

ま…まゆっ♡
もうだめですっ♡♡♡

…わくわく♡
たしゅ♡
…♡

てーちゅ♡
ちゅ♡
♡

射精るっ……!

ちゅ♡
ちゅ♡

ちゅ♡
ちゅ♡
ちゅ♡







劇中での描写に関する歴史的補講

編・伊丹有桂

今回、劇中に描かれる時代特有の要素、漫画のみでは伝わり辛いであろう点に關しての解説を、時代背景補足として行った。

読まれる時代を考慮し、現代仮名遣いにて表記した為、読み際には十分に注意されたい。

◆五頁

「耀一郎が屋敷の前でハイヤーから降りる場面」

わが国で自動車の普及が始まったのは、大正末期より昭和初期にかけてである。海外では既に、自家用・業務用だけではなく軍用のトラックや装甲車など、クルマ需要が爆発的に伸びており、クルマ社会が当たり前になりつつあったのだが、ここにきてようやくわが国においても、乗用車の利便性・必要性が認識され始めたのである。

そのきっかけは、関東大震災による鉄道網の壊滅。

当時の鉄道といえば、国内長距離移動の際に市民が利用していることのできるほぼ唯一の手段であり、物資輸送の要ともいえる存在。それが一切使えなくなれば、復興活動のままたまなさは想像するに難くない。

そんな経緯を経て、世界で初めてベルトコンベア方式で大量生産された「T型フォード」が大量にわが国へ輸入され、またフォード・GM両社各々が国内に自動車工場を設立し量産体制を整え始める中、我々も外資の勢いに抗わんと、昭和六年、日本で初めての国産普及車「ダットサン」が発表され、翌年、それを機と見た日本産業（現代の日産自動車）によりさらなる量産体制が確立されることになる。

やがて、国が戦時体制へと舵を切りはじめ、それと共に一般市民向けの製造は一時中断せざるをえなくなったものの、この時代の自動車とは確かに、「華やかなるモダン」の時代、「列強に比肩せし強き帝国・日本」を表す、ひとつの象徴たりえたのだ。

◆六頁

「耀一郎が藁半紙に論文を書き殴っている場面」

二十世紀初期は、物理学史において最も大きな飛躍の時代であった。

アインシュタインをはじめとし、ハイゼンベルクやシュレーディンガー、ポール・ディラックのような後世まで名を残す「物理の巨人」が雨後の筍のように現れ、世界の法則を次々に定義していったのが、およそ劇中の時代に相当する。

あなたは黄金期の少年ジャンプ、その目次欄を見たことがあるだろうか。ずらり並ぶはいまだ語り継がれる名作の数々、異次元のオーラを放つ執筆陣の名前。あれの物理版だと思ってくれば、粗方差支えはない。

当然、西洋化を果たした文化の粋を誇り始めていた当時の日本に於いても例外ではなく、共に後年ノーベル物理学賞を受賞した朝永振一郎や湯川秀樹が、この時代に量子力学や素粒子論などで功績を残している。

また、朝永に關しては劇中の耀一郎と同様に、ドイツのライプツィヒに留学していた。この頃の海外への渡航と言え、何十日からの船旅を通すのが当然で、劇中の耀一郎にとってもそれは例外ではない。通信技術が未熟だったこの時代において、本場であるヨーロッパで直に学問の最先端に触れるということは現代以上に価値のある行動だったことがうかがえる。

なお、耀一郎がそこそこの年齢の割に童貞であったのは、別に学問が忙しいからなどではなく、単に彼が対人交流性能に若干の不具合を抱えていたからに過ぎないことを、誤解無きよう付記しておく。

◆七頁

「蘭が珈琲を褒められだらしなく顔を緩める場面」

芳醇な珈琲の味と馥郁とした香り、（人によつては）煙草を嗜み、外の世界とある種隔絶された穏やかな時間を楽しむ店、「喫茶店」。もしもあなたが昭和初期にタイムリープしてしまい、不意に珈琲が飲みたくなったとしたら、

道すがらの通行人に不用意に喫茶店の場所を尋ねるのは控えた方がよい。この時代で「喫茶店」、カフェといえ、大抵はある種の不穏な意味合いを含んでいるからだ。

確かに珈琲は出る、着席して注文をすれば確かに出る、そこまではいい。然れども暫く待っていると何故か照明が仄暗く抑えられ、何故か距離感のやたらに近い、洋装和装の女給たちが、これまた何故かチラチラと太ももを見せたり、しなだれかかったり、おかしい箇所を手を伸ばしたり。

この本を手に入れ得る人が共感しやすい言い回しをするならば、「今日は月に一度のサービス営業」であり、「日頃の感謝を込めて」であり、「ご注文のチノちゃんです」であり、「下のお口にもいらっしやいませ」ということであり、どう見てもイメクラである。読者に謝辞を。

また、店内で起こった偶然の恋愛の結果によるものであるから、法的にも何ら問題はないとされることを見るに、結局のところ我々の、とりわけ下半身に関しては、百年前から何ら進歩していないことがよくうかがえる。

あなたが下半身を持て余していない、あるいはそこを歩く婦女子に白い目を向けられたくないのであれば、まともに珈琲を楽しめる形態で営業をする、「純喫茶」の場所を尋ねるのが賢明だろう。

◆八頁

「元・和久井家使用人頭の小田沼が受話器に喋りかける場面」

昭和初期当時、自動交換機によって相手方に接続できるのは市内電話に限られていたため、市外局にかけの際には電話局に詰めている交換手によって逐一人力にて接続してもらうことになっていた。

全国どこへもダイヤルを回すだけで電話がつながるような、現在の状態が整うには、意外にも昭和五十四年まで時代を下る必要がある。

また、電話交換手という職業は、主に若い婦人が担う傾向があった。大正デモクラシーにおいて、平塚らいてう等の始めた女性解放運動によって、女性の社会進出が認められ始めた時代でもあったのだ。

◆八頁

「繭が遊郭で育ってきたことを知る場面」

古くから各地の繁華街で夜の顔の一つを担ってきた売春宿。いわゆる遊郭は、料亭形式の貸座敷という形で戦前のこの時代においても、遅くとも関東大震災による大規模な焼失を乗り越え、都市部に横たわる明闇を区別せず、毎夜合わせ呑み続けていた。

そんな由緒正しき女の華が咲き散る地にて、繭は大切に育てられ、やがて耀一郎の父・寛倫（ひろみち）に八千円、現代の二十万円程に相当する金額で買い上げられた。この身請けの金額は、繭ほどの器量を持ち、しかも異人の血を引くという珍しさ、さらに禿（かむろ）として食わせていた投資を考えれば、すこぶる格安である。

これはひとえに、今まで寛倫が遊んできた女の体型の傾向を考えた店が「この御仁は小さいのを好む太客である」と早合点し、初潮も来ぬ娘を早座敷としてあてがおうとしたところ、維新生まれの帝国紳士たる彼の逆鱗に触れてしまったせいに他ならない。

爵位と権力と脅しをちらつかせ、経費分の負担のみでようやく手を打った六尺二寸の髭面の大男は、なるほど確かに貧乳低身長が好きであり、その上こじらせた処女趣味者でもある。だが店はその先を見誤っていた。

彼の抱える性癖は広義ではロリータ・コンプレックスとも言えたが、その中でも専ら彼は、妙齢にしてこども体型、いわゆる合法ロリータと言われる女性の持つアンバランスさをこそ性的至高とする思想を持つ、語弊を恐れずに言えば、若干面倒なタイプの変態だったのだ。

◆八頁より九頁

「繭が耀一郎に清拭を施している場面」

富裕層といえど、屋敷の中に広大な浴槽を持つような家はそう多くなく、たとえ華族の息子であろうが井戸水を使った清拭や水浴びで済ませたり、洗面器を小脇に抱えて近所の銭湯に通い詰めたりする光景は、当時においては決して珍しくないことであった。

一度視点を現代に戻そう。若い女性がたくさん出てくるメディアにおいて、『裸の付き合い』などという言葉を盾に、複数の女性が集団で、あられもない姿を晒しながら風呂に浸かったり、臀部や胸部を互いに触りあったり、また偶然の結果としてそうになってしまうような歓迎すべきくだりが、我々の業界では通例になっている。

この時代の彼ら、彼女らも同様に、衣服だけではなく身分などの余計なレッテルをも同時に脱ぎ捨て、暫し訪れる真の平等な時間を過ごすのだと考えれば、その光景は想像するに難くない。

ここで話は逸れるが、女学生同士が仮の姉妹関係を結んだり、臀部や胸部を互いに触りあったりする方も好きな読者諸兄には有益（アド）な情報であるのだが、この時代は現代に次いで『百合』の文化が流行し、成熟した時代である。

当時の言葉で、シスターのイニシアルを取り、『エス』と呼ばれたそれは、高度に情報化がなされていない、アナクロさとモダンさを兼ね備えたその時代だからこそ醸し出される、穢れなき女学生同士の倒錯した友情と愛情が量子的に重なり合っているシュレーディンガーの猫とかシューペンハウアー的な悟りの本質的なやつが今のこの殺伐とした世の中に対する一滴の清涼剤として求められていると思うしこの時代でも実際百合同人誌とかがまあ小説という媒体ではあるのだけれども普通に出版されていたという歴史的事実がある訳で更にその消費者たる読者はむしろ男よりも女子が主体であってそういう意味ではより純度の高い百合だし、お心当たりのある方はそういった時代の女学生同士が百合えっちする内容のオリジナル同人誌を是非作っていただきたく、またその晩には謹んで三冊ばかり買わせて戴きます。

以上の件、宜しくお願い致します。

◆二十七頁

「耀一郎が煙草に火を点けている場面」

耀一郎が吸っている銘柄は、二匹の金色コウモリが目印の「ゴールドエンバット」。明治時代に発売開始してより現代に至るまで、ほとんどパッケージ・デザインを変えずに国内で販売され続けてきた、現行銘柄の中でも最も歴史の深いものである。

当時の愛用者として知られるのが芥川龍之介・中原中也・太宰治、アニメではターカー・ザン・ブラックの黒い人など、二次元・三次元を問わず、どういった訳か、陰鬱とした人に愛される空気を纏っているらしく、厭世家気取りの耀一郎がこの銘柄に惹かれたのも、ある意味正着であるように思われる。

通常の煙草を作った際には使わない部分を主原料として製造された旧三級品と呼ばれる銘柄のうちのひとつで（他には「わかば」「エコー」など）、それ故味にブレが

あり、他の煙草より若干安いことが大きな特徴として挙げられる。また、フィルターがない両切り仕様の為、吸う際には吸い口を噛まずに優しく銜え、ゆっくりと口腔内でくゆらすような吸い方がセオリーとなり、マニアックなところではキセルに詰め込んで吸うという楽しみ方も……有る筈だったのだが、同じく昔から存在した両切り煙草「しんせい」とともに、昭和九十一年をもってフィルター付きになってしまった。残念なことだ。

ちなみに、英語が敵性言語とされ言葉狩りが行われた戦時下においては、「金鶏（きんし）」という名称に変更させられ、トレードマークのコウモリも鳥に変えられてしまっていた。

以上の補講をもって、後書きとさせていただきます。

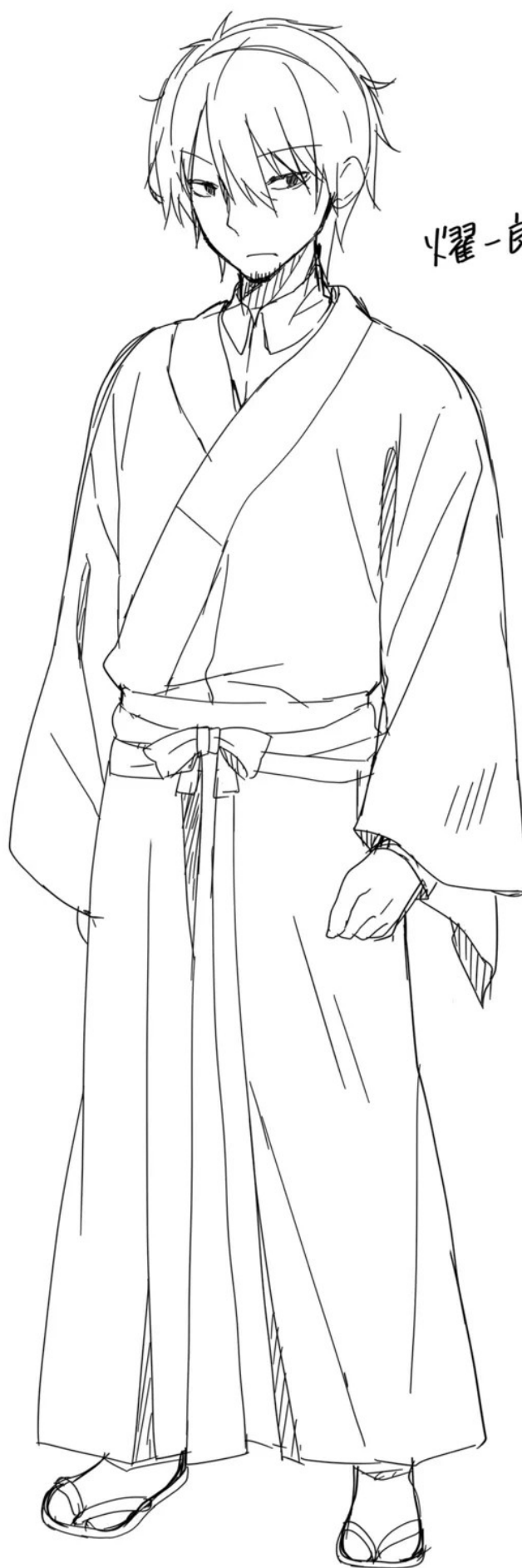
昭和九十一年 八月某日 編者 拝 自宅にて

■キャラ設定画

萌



耀一郎



ユイザキです。

出す出す詐欺をしていたオリジナル本
やっと出せました。
初めてのオリジナル同人誌なので
とても緊張しております…。
続きもいつか描けたらいいなあ。
数ページ前におる補講は豆知識的なものなので、
興味のある方は見てみて下さいね。

あと8/23に「ノーゲーム・ノーライフ、です！」2巻が
出るのでよろしくお願いします！
仕事でも同人でも幼女ばっかり描ける幸せ。

Cocoa Holic #21

発行 ■ ココアホリック/ユイザキカズヤ
発行日 ■ 初版:2016.08.12
 3版:2016.12.31

絵 ■ ユイザキカズヤ
話 ■ rK

字 ■ やま様
タイトルデザイン ■ 柊椋様

スペシャルサンクス ■ 呉・イジス様
 山口様

連絡 ■ <http://c-holic.jp/>
 xx_merry@hotmail.com

印刷 ■ サングループ

 **SUN GROUP**
<http://www.sungroup.co.jp/>